

湯ノ湖

湯ノ湖は、日光地方のほとんどの湖と同様に、火山活動の産物である。三岳の溶岩などの破片が一部を堰き止めてできたのが湯川である。"湯ノ湖"とは、湖の周辺にある温泉に由来する"湯の湖"という意味である。フライフィッシングの人気スポットだが、1800年代後に湖に魚の子孫が持ち込まれるまで魚はいなかった。

湖とその周辺は、ラムサール条約に登録されている奥日光の湿地帯の一部である。湖の外周には約3キロのハイキングコースがある。

金精峠

近世峠は、群馬県と栃木県の県境にまたがる。この日光地方の山間を抜ける峠は、勝道上人（735～817）によって創られた修験道の主要な周回路の一つである。

標高2,000mを超えるこの峠は、奥日光全体を見渡することができる最高の場所の一つである。駐車場からは金精神社への登山道が整備されている。冬季は通行止めになる。